

平成 29 年 9 月 29 日

## 学校関係者評価報告書

自己点検報告書に基づき、学校関係者評価委員会において、次のとおり評価した。

(評価委員)

米川委員 (関大北陽高校) 上山委員 (大阪高等学校) 酒井委員 (さかい鍼灸院・卒業生)  
 矢野委員 (教員養成学科長) 清藤委員 (鍼灸学科長) 三澤委員 (柔整学科長)  
 田口委員 (教務部長) 藤井委員 (事務局長)

(評価区分)

5 極めて適切に行われている 4 適切に行われている 3 普通  
 2 適切にややかける 1 適切でない NA あてはまらない

評価項目		評 価	
<b>基準 1 教育理念・目的・育成人材像等</b>			
1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	学則を含め、適切に定められている。学科毎の人材育成像を具体的に明確にすること。	3
1-2	学校の特色はなにか	パンフレット等を通じ、学校としての特色を打ち出し、公表されている。教職員全体の周知徹底が必要である。	3
1-3	学校の将来構想を抱いているか	厳しい収支状況であるが、将来構想に向け、取り組むべきである。	3
<b>基準 2 学校運営</b>			
2-4	運営方針は定められているか	役員会を通じ、明確に定められている。	4
2-5	事業計画は定められているか	役員会を通じ、明確に定められているが、学生募集に関する事業報告は、目標に未達成である。定員充足にむけ、具体的な改善に取り組むべきである。	4
2-6	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	学院組織及び運営規則に基づき、明確に実施されている。	4
2-7	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	各個人の目標管理に基づき、人事評価に取り組んでいるが、業務に対する貢献度、職務の遂行度や業績、能力などを一定の基準で、査定する事の処遇まで到達できていない。	3
2-8	意思決定システムは確立されているか	学校組織が整備されており、意思決定システムは確立されている。	4

2-9	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	LAN構築により、業務の迅速化、効率化が図られている。	4
基準3 教育活動			
3-10	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー等を学科毎で明確にし、具体的な育成人材像を定める必要がある。	3
3-11	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	業界等との連携を強化し、科目間の連携を行い、業界の人材ニーズレベルにあわせ、知識、技術、人間性の修得にむけて、取り組む必要がある。	3
3-12	カリキュラムは体系的に編成されているか	カリキュラムは、社会のニーズに基づき、職員間で定期的な教育委員会等を開催し、体系的に編成されている。	4
3-13	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	科目間の連続性を意識し、積み上げ方式とするカリキュラムが構築されている。	4
3-14	授業評価の実施・評価体制はあるか	授業評価アンケートを実施し、評価体制は整備されているが、全科目の実施ではない。 非常勤講師担当科目も、実施することが望ましい。	3
3-15	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	F D研修会の実施や専門分野における研修会等に参加し、教員の資質の向上に努めている。	3
3-16	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	学則に基づき、明確に実施している。	5
3-17	資格取得の指導体制はあるか	成績不良者に対し、個別に指導を行う支援体制に努めている。	4
基準4 教育成果			
4-18	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	定期的な就職説明会、就職相談会を実施し、就職に対する意識の改善に努め、就職率の向上に取り組んでいる。	3
4-19	資格取得率の向上が図られているか	合格率向上に向け、成績不良者に対する補講の実施などフォローアップに取り組み、昨年度に比較し、向上が図られた。	4
4-20	退学率の低減が図られているか	クラスアドバイザー、科目担当者、教務課で連携しながら、出席・成績状況等を基に、早期対応を行い、退学者の抑制にむけて取り組んだ。	4
4-21	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	一部の卒業生の活躍等は、把握できている。 卒業生との連携により卒業生情報の把握に努めなければならない。	3

基準5 学生支援			
5-22	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	相談・指導体制は整備されているが、学生自身の就職に対する意識が低い。	3
5-23	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	学生課を中心にクラスアドバイザーと連携し、学生相談・指導体制に取り組み、有効に機能している。	3
5-24	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	奨学金制度が周知徹底され、逐次、相談に対応できている。	4
5-25	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	附属治療所を開設しており、健康管理体制は充分整備されている。	4
5-26	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	課外活動数は少ないが、規程等が整備されており、学生が活動を希望すれば、支援はできる経協にある。	3
5-27	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	地方からの入学生は少ない。 学生寮はなく、信頼のおける賃貸業者を紹介し、対応している。	4
5-28	保護者と適切に連携しているか	社会人の比率が高い。高校新卒者の入学生に対しては、出席状況、成績証明書の通知等が行われており、連携に努めている。	3
5-29	卒業生への支援体制はあるか	同窓会組織が整備され、毎年、卒後研修会等を積極的に実施している。	3
基準6 教育環境			
6-30	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	委託業者により、施設等は適切に整備されている。	4
6-31	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	整形外科病院、老健施設等、卒業生と連携を行い、教育体制が整備されている。	3
6-32	防災に対する体制は整備されているか	万が一に備え、組織だった体制を整備すべきである。	3
基準7 学生の募集と受け入れ			
7-33	学生募集活動は、適正に行われているか	予算計画に基づき学生募集活動は実施されているが、残念ながら、定員は充足していない。教職員一丸となって取り組むべきである。	3
7-34	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	教育成果を国家試験合格率として、公表している。昨年度に比べ、合格率は向上した。	3
7-35	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	入試管理会議を経て、適切かつ公正に実施されている	4

7-36	学納金は妥当なものとなっているか	社会状況を鑑み、学納金の減免制度を導入し、対応している。	3
<b>基準 8 財務</b>			
8-37	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	帰属収支差額が連続で赤字となり、学院経営として厳しい状況にある。	3
8-38	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算、収支計画は役員会を通じ、有効かつ妥当なもので計画されている。	3
8-39	財務について会計監査が適正におこなわれているか	学院として会計監査が適正に行われている。	5
8-40	財務情報公開の体制整備はできているか	学院として財務情報が公開されている。	5
<b>基準 9 法令等の遵守</b>			
9-41	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令等を遵守し、適正な運営がなされている。	4
9-42	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	規程を設けて、対応されている。	4
9-43	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検、自己評価は適正に実施されている。 SWOT分析により、問題点等を整理している。 問題点の改善を進めるべきである。	3
9-44	自己点検・自己評価結果の公開はしているか	適正に公開されている。	4
<b>基準 10 社会貢献</b>			
10-45	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	教員の派遣、施設の開放に継続的に取り組んでいる。また、社会貢献として、「吹田ボランティアフェスティバル」等に参加、附属治療所の啓発活動、市民公開講座、通学路の定期的な清掃活動等の社会貢献に取り組んでいる。 新たに吹田市及び大阪市と「津波災害又は水害時における緊急一時避難施設としての使用に関する協定」の締結を行った。	4